

評価者	歴史まちづくり推進担当担当部長 榊淵 規彰
評価者	文化財部長 榊淵 規彰

◎ 評価対象分野・施策の方針

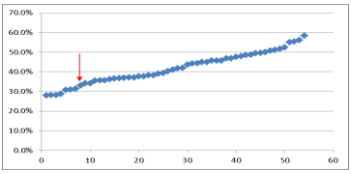
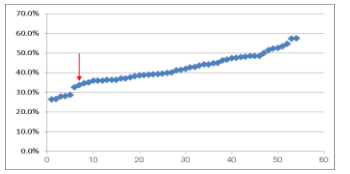
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実
目標とすべきま ちの姿	文化財保護体制の強化により、文化財指定件数が増え、文化財の適切な保存が図られています。発掘調査体制が強化され、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行が円滑に行われています。文化財資料がデータベース化され、出土品、歴史資料等の整理、保管がなされています。保管する文化財は展示施設等で一般に公開されるとともに、文化財の調査・研究の成果は、学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信されています。郷土芸能大会などによる情報発信により、伝統芸能の保護・技術の伝承が図られています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	21.8%	平成27年度	18.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

<p>お金の使い方</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>使いすぎ</td> <td>ちょうどよい</td> <td>足りない</td> </tr> <tr> <td>必要以上の効果</td> <td>6.6%</td> <td>1.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>12.1%</td> <td>33.0%</td> <td>5.2%</td> </tr> <tr> <td>効果不十分</td> <td>11.2%</td> <td>2.6%</td> <td>5.2%</td> </tr> </table> <p>平成26年度</p> 			使いすぎ	ちょうどよい	足りない	必要以上の効果	6.6%	1.0%	0.0%	ちょうどよい	12.1%	33.0%	5.2%	効果不十分	11.2%	2.6%	5.2%	<p>お金の使い方</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>使いすぎ</td> <td>ちょうどよい</td> <td>足りない</td> </tr> <tr> <td>必要以上の効果</td> <td>6.0%</td> <td>0.7%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>11.4%</td> <td>33.6%</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>効果不十分</td> <td>11.0%</td> <td>3.7%</td> <td>8.0%</td> </tr> </table> <p>平成27年度</p> 			使いすぎ	ちょうどよい	足りない	必要以上の効果	6.0%	0.7%	0.0%	ちょうどよい	11.4%	33.6%	1.0%	効果不十分	11.0%	3.7%	8.0%	<p>&lt;妥当性の分析&gt;</p> <p>◎歴史まちづくり推進担当</p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに、平成26年度、27年度とも約3割の方が「ちょうどよい」と回答しており、選択肢の中では最も多い。お金の使い方、仕事の効果の数値については、前年に比べてほぼ横ばいだが、仕事の効果が「不十分」と回答している人の中では、お金の使い方が「足りない」と回答している人が2.8%増加した。これに対し、前年に比べて仕事の効果が「ちょうどよい」と回答している人の中で、お金の使い方が「足りない」と回答している人が4.2%減となり、お金の使い方に関する市民意識は、仕事の効果を「ちょうどよい」と考える人、「不十分」と考える人の間で相反する結果となった。</p> <p>上記(1)において、事業の認知度が3.2%減少していることから、事業の内容や意義について、積極的に発信する必要がある。今後市内外の来訪者に親しんでいただく施設となるよう、引き続き整備を進めていきたい。</p> <p>◎文化財部</p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と回答した割合が33.6%と選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金の「使いすぎ」、効果は「ちょうどよい」、次はお金の「使いすぎ」で効果が「不十分」であり、市民意識としては、どちらかというお金を使いすぎているという印象が強い状況にあると捉えることができる。</p> <p>経年的にはこれらの傾向にあまり大きな変化がみられない。文化財の調査内容や修理内容に対して周知が足りないことが主な要因と考えられる。</p>
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない																																	
必要以上の効果	6.6%	1.0%	0.0%																																	
ちょうどよい	12.1%	33.0%	5.2%																																	
効果不十分	11.2%	2.6%	5.2%																																	
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない																																	
必要以上の効果	6.0%	0.7%	0.0%																																	
ちょうどよい	11.4%	33.6%	1.0%																																	
効果不十分	11.0%	3.7%	8.0%																																	
<p>全体の位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)</p>																																				

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	13.8%	45.5%	12.6%	28.0%	100.0%
平成27年度	18.7%	45.1%	11.4%	24.7%	100.0%

## 2 内部評価

### (1) 平成27年度の目標

<p><b>◎歴史まちづくり推進担当</b>          (仮称)鎌倉歴史文化交流センターの早期の開設を目指し、建物改修工事、展示製作業務等を引き続き実施する。敷地及び建物の維持管理、運営、文化施設としての活動等、開館後に必要な業務の準備を進める。</p> <p><b>◎文化財部</b>          発掘調査の体制強化を図り、発掘調査待機期間の短縮及び出土資料整理の促進を図る。          文化財に対する周知・啓発を図るため、高校を含めた教育現場の学習機会を充実していく。          国宝館は、収蔵品の充実を図り、魅力ある展示の企画・実施による入館者の増加を図るとともに、学校教育の場としての利用の促進を図るなど、普及啓発事業にも力を入れる。また昇降機更新や免震設備対策の検討を継続する。</p>
---

### (2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
歴史-03	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業	33,073	64,901	55,588	84,036	3.0	2.5	b	A
文財-05	文化財調査・整備事業	78,467	77,856	105,257	105,066	3.5	3.5	a	A
文財-06	文化財保存・修理助成事業	26,073	60,464	37,554	72,126	1.5	1.5	b	B
文財-07	公開宣伝事業	618	1,596	8,272	9,370	1.0	1.0	a	A
文財-08	国宝館管理運営事業	51,813	49,196	81,753	79,349	4.0	4.0	a	A

### (3) 主な実施内容

<p><b>【主な実施内容】</b></p> <p><b>◎歴史まちづくり推進担当</b>          当初平成27年度早期に発注予定だった(仮称)鎌倉歴史文化交流センター改修工事について、2度に渡る入札不調などにより、スケジュールを変更する必要が生じ、最終的に着工が平成28年3月となった。なお、同改修工事、改修工事に伴う工事監理業務、鎌倉の歴史等を紹介する展示製作業務については、スケジュールの変更に伴い平成27年度から平成28年度への繰越明許費を設定した。          公有財産の適切な維持管理のため、庭園管理業務、廃棄物処理業務、施設管理業務等を行った。          国補助金(集約促進景観・歴史的風致形成推進事業補助金)、県補助金(市町村自治基盤強化総合補助金)の申請を行い、補助対象事業となった。</p> <p><b>◎文化財部</b>          発掘調査の待機期間について、補助金制度を活用しながら短縮を図った。(文財-05)          小学生に発掘現場の見学会を行い、学習機会の一助とした。また郷土芸能大会では、イベント会社と連携したり、鎌倉女子大の学生による「エイサー」披露等、これまでと異なる内容で実施し、好評を得た。(文財-07)          鎌倉国宝館では、7回の特別展と1回の平常展を開催し、関連の講演会を実施するなど、魅力ある展示の企画・実施に努め、入館者の増加を図った。また、出張講座の実施や関係図書の出版・頒布により、市民等の便宜に供した。また、学校からの要望に応じ、見学に際しての特別解説を実施した。市内高校のインターンシップ(職場体験)の受け入れを行った。教職員研修の受け入れを行った。(文財-08)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b></p> <p><b>◎文化財部</b>          教育現場の学習機会を充実していく取組の中で、高校までは拡大することができなかった。早い段階からの啓発活動としては、小学生への啓発活動を充実していくことを目指す。(文財-07)          昇降機更新や免震設備対策については、予算措置がなされなかったことから未実施となった。(文財-08)</p>
---

### (4) 平成27年度の取組の評価

<p><b>◎歴史まちづくり推進担当</b></p> <table border="1"> <tr> <td>効率性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか</td> <td>■ 適切</td> <td>□ 要改善</td> </tr> <tr> <td>妥当性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td>□ 要改善</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか</td> <td>□ 適切</td> <td>■ 要改善</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td>□ 要改善</td> </tr> </table> <p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>          (仮称)鎌倉歴史文化交流センター改修工事について、2度に渡る入札不調などにより、スケジュールを変更する必要が生じた。このため、開館予定時期の延期が余儀なくされ、平成27年度中の開館を予定して措置した開館後の業務のための費用が執行できず、補正減を行うこととなった。</p>	効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善	妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善	有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	□ 適切	■ 要改善	公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善													
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善													
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	□ 適切	■ 要改善													
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善													

◎文化財部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

市民意識調査で、事業費がかかりすぎているという評価があることから効率性を「要改善」とした。  
 しかし、埋蔵文化財の発掘調査や文化財の保存・修理等の取組自体は、市民の今後の進め方からも適切であると評価されており、また出土品の庁舎内展示や郷土芸能大会の内容変更を行ったことによる来場者増など、文化財への関心を持つ機会を増やせたこと等から妥当性や有効性は適切とした。  
 さらに、文化財修理や鎌倉国宝館の観覧には、所有者負担や観覧料を求めているため、公平性についても適切とした。  
 今後は、文化財保存に関する必要性等、市民に周知を図っていきたい。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

◎歴史まちづくり推進担当

(仮称)鎌倉歴史文化交流センターについては、平成29年4月の開設を目指し、整備を進める。  
 市内外の来訪者に長く親しまれる施設を目指し、開設後に向けた適切な維持管理及び運営体制の整備を行う。

◎文化財部

本施策の方針では、財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」という回答が若干多い傾向にある。また、市民評価委員会からも経費について指摘がある。これまでも修理等については、緊急性、必要性等を考慮しながら実施しており、また支出額についても、一部の補助金は削減して支出している状況である。  
 今まで受け継がれてきたことを、これからも引き継いでいくということがどれほど重要なことであるかということ、今後も市民に周知を図っていく。  
 また鎌倉国宝館では鎌倉の歴史や文化に関する情報や学習機会を提供していくための収蔵品の充実、展示や講座の積極的な実施、学校教育との連携などに努めていくとともに、広報かまくらやホームページ等を活用しこのような取組について一層の周知に努めたい。  
 さらに課題であった昇降機更新・免震設備対策を着実に実施することで、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努めるとともに、免新設備対策の充実については引き続き検討を進めていく。

4 平成28年度の目標

◎歴史まちづくり推進担当

(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの平成29年4月の開設を目指し、建物改修工事、展示製作業務等を引き続き実施する。敷地及び建物の維持管理、運営、文化施設としての活動等、開館後に必要な業務の準備を進める。

◎文化財部

引き続き発掘調査体制の強化を図るとともに補助金制度の利用を促進し、発掘調査待機時間と資料整理未着手案件を縮減していく。  
 現在継続している修理等を着実に進めるとともに、新たな修理案件については、緊急性、必要性の把握に努め、優先順位をつけながら適切に実施していく。  
 文化財に対する啓発を図るため、教員や子どもたち等に発掘現場見学の機会を設け、教育や学習に役立てる機会を作る。  
 鎌倉国宝館では、課題であった昇降機更新・免震設備対策を着実に実施し、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努める。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	歴史-01	事業名	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業					単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの設置									↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
市民に親しまれる施設を目指し、展示製作業務、建物改修工事等を実施し、平成29年4月の開設を目指すため。	目標値	30.0	60.0	90.0	100.0	100.0	100.0				
	実績値	30.0	40.0								
	達成率	100.0%	66.7%								
整理番号	歴史-01	事業名	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業					単位		指標の傾向	備考
指標の内容	(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの運営									↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
開館後の円滑な運営を目指し、維持管理、開館準備等業務を行うため。	目標値	維持管理	維持管理 開館準備	維持管理 開館準備	維持管理 施設運営	維持管理 施設運営	維持管理 施設運営				
	実績値	維持管理	維持管理 開館準備								
	達成率										

整理番号	文財-05	事業名	文化財調査・整備事業					単位	月	指標の傾向	備考
指標の内容	発掘調査までの待機時間									↘	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
待機時間の縮減が課題であるため。	目標値	—	6	6	6	6	0				
	実績値	5	3								
	達成率		50.0%								
整理番号	文財-06	事業名	文化財保存・修理助成事業					単位	件	指標の傾向	備考
指標の内容	保存修理件数									↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
着実に保存修理を実施することにより、貴重な文化財をより良い状態で未来に引き継ぐことができるため。	目標値	7	8	9	10	10	10				
	実績値	12	11								
	達成率	171.4%	137.5%								
整理番号	文財-07	事業名	公開宣伝事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	鎌倉市遺跡調査・研究発表会観客数									↗	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
観客数が多いほど、より多くの市民が、市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。	目標値	280	280	280	280	280	280				
	実績値	280	280								
	達成率	100.0%	100.0%								
整理番号	文財-08	事業名	国宝館管理運営事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	入館者数									⇒	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
当該事業へのニーズや反響を把握するため。	目標値	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000				
	実績値	30,875	50,585								
	達成率	44.1%	72.3%								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	指摘への対応、コメント等
<p>・文化財についての情報の発信についてがまだまだ局的であり、改善の余地が多いと感じる。</p>	<p>◎文化財部 文化財の情報発信はいろいろな手法を検討し、発信していきたいと考えている。</p>
<p>・貴重な文化財の展示施設は、ただの博物館・美術館とだけでなく、学校教育の場としても活かしていけるよう、今後も様々なアプローチで施設を活用していったほしい。</p>	<p>◎歴史まちづくり推進担当 (仮称)鎌倉歴史文化交流センターにおいては、小中学校等と連携し、魅力的なメニューを検討していきたい。</p>
<p>・文化財保存に関しては、その指定数も年々増えており、限られた予算から考えると優先順位をつけて保護を進めなければならない状況であると思う。文化財の状況を適切に把握し、修繕の緊急性、重要性に応じた保存活動は必要である。</p>	<p>◎文化財部 鎌倉国宝館においては、展示や講座の積極的な実施の他、市内外の小中高等学校の学校行事による利用に際し特別解説等を実施するなど、引き続き学校教育との連携に努めていく。</p>
<p>・埋蔵文化財出土資料の増加による保管場所の確保と出土資料の整理を適切に行うべきである。</p>	<p>◎文化財部 現状も限られた予算の中で、緊急性、必要性などを考慮して文化財の修理等を行っている。</p>
<p>・発掘調査実施の待機期間、調査終了から報告書刊行までの期間が長期化している。調査・研究体制を強化すべきである。</p>	<p>◎文化財部 保管場所の確保は、喫緊の課題と考えている。なるべく早く適切な保管場所を確保したいと考えている。</p>
<p>・文化財に関する情報周知、宣伝が十分とは言えない。効果的な周知方法を引き続き検討する必要がある。</p>	<p>◎文化財部 報告書刊行までの期間は、少しずつではあるが短くなってきている。今後も短縮化にむけて努力していく。</p>
<p>・文化財に関する情報周知、宣伝が十分とは言えない。効果的な周知方法を引き続き検討する必要がある。</p>	<p>◎文化財部 ご指摘のとおり、十分ではないと考えており、効果的な周知方法を検討する。</p>
<p>・(仮称)鎌倉歴史文化交流センターが市民の学習の場として位置づけられているが、観光的要素も看過できないため、観光、都市計画部局との連携を図る必要がある。</p>	<p>◎歴史まちづくり推進担当 (仮称)鎌倉歴史文化交流センターは教育施設として整備するものであるが、施設の立地等も考慮し、様々な活用方法について検討していきたい。</p>
<p>・歴史環境、歴史的風土の保全に関する市民の意識は重要とされているが、個別の文化財保存等については費用のかけ過ぎとする割合が比較的高い。重要度、緊急度等から優先順位をつけ、財源を考慮しながら整備を進められたい。</p>	<p>◎文化財部 現状も限られた予算の中で、緊急性、必要性などを考慮して文化財の修理・保存等を行っている。今後も慎重に優先順位をつけ対応していきたい。</p>



## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・自ら課題を認識し対応しようとするなど、課題・問題を把握し、改善しようという姿勢がみられた。
- ・発掘調査の待機期間について、補助金制度を活用しながら短縮を図った。
- ・外部資金の獲得に努めた。
- ・出前出張や見学の際の解説の実施、関係図書の出版、インターシップの受け入れ等など、様々な形で児童・生徒・学生達を巻き込んで、新たな活動を行っており、教育現場の学習機会を充実する取組を含め、幅広く対応した。
- ・国宝15件、国、県、市指定あわせて596件の指定文化財があり保存管理されている。
- ・国宝館において7回の特別展と1回の平常展を開催し、関連の講演会を実施するなど、魅力ある展示の企画・実施に努め、入館者の増加を図った。国宝館の来場者増加から企画、実施した展覧会等、イベントが魅力的であったのが推察される。

		評価の内訳				⇒	委員会の評価
取組	↗	3	↘	1	→		4
効果	○	1	△	2	—	5	—

### 《課題》

- ・財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」という意見が多いこと等、効率性の面で検討が求められる。
- ・文化財保存に関する必要性等、市民に周知を図っていくことが求められる。
- ・実績値が目標値を大きく下回っているにもかかわらず、本年度の目標値が見直されていない。その他の指標も事業の進捗を表すものとなっていないため、再考することが求められる。
- ・市民評価委員からの指摘に対して「現状も限られた予算の中で、緊急性、必要性などを考慮して文化財の修理等を行っている。」とあるが、それらの評価結果が分からない。
- ・「伝統芸能の保護・技術の伝承が図られている」まちの姿が事業の中に見受けられない。
- ・国の文化財で市は介入しにくい事業だったのかもしれないが、八幡宮の若宮大路の改修結果があまりに歴史的風格のないものになってしまったと感じた。コストや管理のこともあったと想像するが、今後もこのように市内の歴史的財産の改修がなされていくことに不安を感じる。

### 《提言》

- ・「鎌倉歴史文化交流センター」の平成29年4月開設について遅滞なく進められたい。また、同センターにおいては、小中学校等と連携し、魅力的なメニューを検討すべきである。
- ・歴史的風致維持向上計画の推進がうまくいかないと、歴史文化交流センター自体にも影響を及ぼしてしまう印象を受ける。良い施設となるよう、努力してほしい。
- ・「博物館」については、既存概念にとらわれない広範な視点から検討すべきである。
- ・市民意識調査には小中学生、高校生の評価は含まれていないので、学校等との連携による学習効果を測定する方策を検討すべきである。
- ・保存修理件数の目標を年間1件毎に増やすことを目標にしているが、修理費用はそれぞれ違うため、修理対象が全体でどれくらいあるのかを明確にし、年間予算を考慮して中長期の買収計画を策定すべきである。